

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地			
専門学校穴吹コンピュータカレッジ		昭和61年3月25日	佐戸 三千代	〒 760-0017 (住所) 香川県高松市番町2-4-14 (電話) 087-822-3001			
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日	穴吹 忠嗣	〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	情報システム学科	平成15(2003)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	コンピュータ全般の知識、プログラミング、システム設計、ネットワーク、サーバー構築などの技術を修得させ、ユーザの要望を満たす業務システムやスマートフォンのアプリ開発ができる技術と企画提案力を兼ね備えた人材を養成する						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	基本情報技術者試験、Javaプログラミング能力認定試験、情報検定J検情報システム試験						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,400 単位時間	450 単位時間	1,950 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)				
45 人	52 人	0 人	0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		12	人			
	■就職希望者数(D)		12	人			
	■就職者数(E)		12	人			
	■地元就職者数(F)		3	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		25	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	(令和 5 年度卒業者にに関する令和6年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) システムエンジニア職、ネットワークエンジニア職、ウェブシステムエンジニア職、プログラマー職、システム運用管理職 等					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無				
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/computer/information-systems/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		2,400 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		290 単位時間					
うち必修授業時数		2,400 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		290 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
(B: 単位数による算定)							
総授業時数		0 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位					
うち必修授業時数		0 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)			1 人	
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)			0 人	
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0 人	
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)			1 人	
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)			1 人	
	計					3 人	
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					2 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業や各種団体等との連携により、該当学科で必要とされる知識や技術について、カリキュラムの改善・構築等を目的とした教育課程の編成を行う。卒業後、即戦力となれる専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するため、カリキュラム内容については、連携企業や団体等と意見交換を行い、常に時代のニーズに即しているか定期的に点検を行い、改善を盛り込む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設立し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 功	香川県情報サービス産業協議会	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
北川 智之	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
亀田 健司	シフトシステム株式会社	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山崎 正宏	株式会社ヘルツ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
佐戸 三千代	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
壽福 英尚	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長・ 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
榎本 靖之	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年2月1日 15:30～17:30

第2回 令和6年3月5日 15:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

IT人材を育てたいという社会の流れに上手に協調できる為には何が重要かという問題意識が必要である。カリキュラム検討するにあたって、地元香川県、高松市が求めているIT人材とはどのような人材をいうのかを、各委員から意見をいただいた。特に、従来からあるITスキルだけでなくクラウド、AIを使いこなせる技術者のニーズも高まっており、その内容を盛り込んだ科目の導入について意見をいただいた。また広報キャリアセンターと連携し、卒業生の活躍状況等の情報を分析しカリキュラムの検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 業界で求められる必須の専門知識や実践的なシステム開発技術の修得はもとより、交渉力、プレゼン力などのコミュニケーションスキルなども身に付けることが出来るよう、それぞれの専門職に特化したカリキュラム・授業内容を連携企業や各種団体等と協力して構築・実施する。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当の授業部分に関しては、期末に成績評価を企業担当者が行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
卒業研究 (企画・設計)	企業のプロジェクトチームという設定で、現状の業務やシステムに対する新しい提案を行い、システム構築に必要な要求定義をまとめる能力を、演習を通し理解する。	(株)穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部
卒業研究	前期に企画したシステムをプロジェクトチームの一員として、システム完成を目指し、学んできたプログラム言語やシステム開発の知識を実務に応用する力を習得する。	(株)穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。 「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	AWS Academy Cloud Foundations	連携企業等: AWS academy
期間:	令和5年4月3日(月)	対象: 情報システム学科担当教員
内容:	AWSの基礎技術や導入メリットについて知識と合わせて学生に重点的に教えるべきポイントを学ぶ	
研修名:	ドローン操縦技能講習	連携企業等: RUSEA高松支部
期間:	令和5年4月4日(火)～4月5日(水)	対象: 専攻科担当教員
内容:	ドローンの基本的な操縦技能を学ぶ	
研修名:	指導者向けWebセミナー ～情報処理・プログラミング分野の新しい学びの形について	連携企業等: サーティファイ認定試験事務局
期間:	令和5年8月22日(火)	対象: 情報システム学科担当教員
内容:	上位教育機関におけるプログラミング実装力養成と実践プログラミング技術試験の活用について	

研修名: 情報系教員のためのGPTを搭載したアプリ開発演習	連携企業等: WillBooster株式会社
期間: 令和5年12月19日(火)～20日(水)	対象: 情報システム学科担当教員
内容: PythonのGPTライブラリであるLangChainを使用したアプリ開発	
研修名: 情報セキュリティ対策研修	連携企業等: 穴吹学園デジタル推進室
期間: 令和6年1月12日(金)	対象: 全教員
内容: 機密情報保持や情報漏洩防止を目的としたセキュリティ対策について	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 発達障害の基礎知識	連携企業等: 香川県発達障害支援センター「アルプスカガワ」
期間: 令和5年6月28日(水)	対象: 情報システム学科担当教員
内容: 発達障害の基礎を学び、教員のこころの動揺を取り除き、学生対応で気を付けるべき点を学ぶ	
研修名: コンプライアンス研修	連携企業等: 穴吹学園本部コンプライアンス室
期間: 令和5年8月22日(火)	対象: 全教員
内容: 職場におけるハラスメント理解と防止対策について	
研修名: ICT活用研修	連携企業等: EDL(株)
期間: 令和5年8月30日(水)	対象: 情報システム学科担当教員
内容: ICT教育を活性化するためGoogleワークスペースの使用法を段階的に学ぶ	
(3) 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: AWS Academy × Cisco Networking Academy 合同プログラム交流会	連携企業等: AWS academy
期間: 未定	対象: 情報システム学科担当教員
内容: AWS Academy プログラムの最新情報の共有と教育関連の動向の共有	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: キャリアサポーター養成講座	連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団
期間: 未定	対象: 中堅教員
内容: 学生が自分自身のキャリア(仕事人生)を主体的に設計・選択・決定できるように支援する」という理念を広く浸透させ、教職員として身に付けるべきマインド(態度や姿勢・考え方)を学ぶ	
研修名: LGBTQの基礎知識	連携企業等: 未定
期間: 未定	対象: 情報システム学科担当教員
内容: 多様性の理解	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
①関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける	
②自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する	
③結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像は、定められていますか
(2) 学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3) 教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか
(4) 学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5) 学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6) 教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8) 財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか
(11) 国際交流	
※(10)及び(11)については任意記載。	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での意見を受け、平成27年度から学習支援が必要な学生のサポートとして「学びラボ」を設置し、放課後等に支援授業をしている。教員の教授力向上のために研修を実施しており、今後は研修以外にも教員のインターンシップを実施する予定。学生の就職のミスマッチを防ぐため、定期的なガイダンスで希望業種・職種や就職に対する不安などを把握する。また社会人基礎講座の授業でコミュニケーション力の向上に繋がる取り組み(卒業生座談会・グループディスカッション等)を増やしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 扶美子	香川県立高松東高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
田中 雅子	株式会社たかせんテレコム	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
島 薫	株式会社パオ・フィール	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
富田 武久	在校生保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/content/uploads/2f277f9df3ba49f8c7b83449f05faac1.pdf>

公表時期: 令和6年3月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

基本的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/disclosure/#computer>

公表時期: 令和6年6月1日

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			コンピュータ概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術の基本的な知識を習得する。	1前	90	6	○			○		○		
2	○			システム開発概論	国家資格(基本情報技術者)取得に必要な、コンピュータシステムの開発技術やマネジメント知識を習得する。	1前	60	2		○		○		○		
3	○			ネットワーク・セキュリティ概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術特にネットワーク分野の基本的な知識を習得する。	1前	60	4	○			○		○		
4	○			アルゴリズムI	プログラミングに必要な手順や計算法であるアルゴリズムについて学習し、国家資格(基本情報技術者)の科目(フローチャート・擬似言語)の理解度を高める。	1前	90	3		○		○		○		
5	○			データベース基礎	SQLの基礎を理解する	1前	30	2	○			○			○	
6	○			J a v a I	java言語の基本制御文からオブジェクト指向を意識したプログラミングを理解する力を身につける。また基本情報技術者試験の科目Bの理解支援と位置づける。	1前	90	3		○		○		○		
7	○			アルゴリズムII	国家資格(基本情報技術者)の科目B対策を中心に行う	1後	60	2		○		○		○		
8	○			J a v a II	J a v a Iの内容の理解を高める。加えて例外処理やマルチスレッドなど、本格的なプログラミングに必須の技術を習得する。	1後	##	3		○		○		○		
9	○			ネットワーク演習	システムエンジニアとして必要なネットワーク技術の基本を習得する。	1後	60	2		○		○		○		
10	○			インターネット実習基礎	ホームページを作成するための言語をツールを使わずにHTML, CSSを学ぶ。	1後	60	2		○		○			○	
11	○			情報処理講座I	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後試験分野対策を行う。	1後	60	2		○		○		○		

12	○		データベース 設計演習	情報をデータ化し、適切な形式でデータベースに格納する手順を理解する。正規化の基本を理解する	1 後	40	1		○	○	○								
13		○	インターン シップ I	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	1 後	96	2		○	○									
14	○		JavaScript&A jax I	WebページでJavaScriptを使うための基礎を学習する。JavaScriptライブラリ「jQuery」を利用したWebアプリケーションの制作方法を学習する。	2 前	60	2		○	○									
15	○		Webアプ リケー ション演 習	PHPを使ったWebアプリケーションを作成するスキルを養う。MySQLを使ってSQLを学習する。HTTPの基本的な仕組みについて理解する。	2 前	90	3		○	○	○								
16	○		UML	オブジェクト指向の基本概念を理解する。UMLダイアグラムを理解する。プログラムを設計するための指標とする。	2 前	30	2		○		○								
17	○		IoT演習 I	電気回路の基礎を学習する。Arduinoのプログラム基礎を学習する。	2 前	60	2		○		○								
18	○		データベース 開発演習	データベース管理の基礎を理解する。オラクルマスターを目指してオラクルの実装技術を身につける。	2 前	60	2		○		○								
19	○		情報処理講座 II	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後試験分野対策を行う。	2 前	30	2		○		○								
20		○	専攻 I	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	2 前	30	1		○		○								
21	○		ビジネスプレ ゼン演習 I	就職活動に向けて、繰り返しLT(ライトニングトーク)等を実施し、対人プレゼンテーション力を高める	2 前	30	2		○		○								
22	○		サーバー構築 演習	LinuxOSのインストールと各種サーバの構築手法を学ぶ。	2 後	90	3		○		○								
23	○		JavaScript&A jax II	JSONを理解する。JavaScriptでサーバとクライアントの連携を学習する。	2 後	80	2		○		○								
24	○		ログ解析演習	LinuxOS上に構築した各種サービスのログの見方を学ぶ、またログ解析ツールを使った演習を行う。	2 後	30	1		○		○								
25	○		IoT演習 II	IoT演習 I の内容を発展させ各種センサーを利用したアプリケーションの開発を行う。	2 後	30	1		○		○								

26	○		モバイルアプリケーション	ハイブリッドアプリ開発環境であるMonacaを利用し、スマートフォンが持つカメラ、GPS API、各種センサーを利用したアプリケーションの作成技術を学習する。	2後	60	2		○		○		○						
27	○		情報処理講座Ⅲ	基本情報技術者試験、応用情報技術者試験の午後試験分野対策を行う。	2後	30	2	○			○		○						
28		○	専攻Ⅱ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	2後	30	1		○		○		○						
29	○		社会人基礎講座Ⅰ	就職活動の流れを知り、いつ、何を、どんな形でやるべきかを理解する。就職活動に臨むにあたり必要な常識、マナー、ルールを理解する。自己分析を行うとともに、自分の考えを他人に理解してもらう為に必要な表現力を高める。	2後	30	2	○			○		○						
30	○		ビジネスプレゼン演習Ⅱ	改まった場でのプレゼンテーションなど、様々な場所や機会に応じた、的確で効果的な対応能力を養う。	2後	30	2	○			○							○	
31		○	インターンシップⅡ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	2後	96	2			○	○								
32	○		アジャイル開発演習	スパイラルモデル、アジャイル、スクラムでの開発手法に基づいたシステム開発を行う。開発手法を通じて、開発チームで必須のコミュニケーション能力を養う。	3前	90	3		○		○								○
33	○		RPA演習	pythonプログラムを用いてExcelの自動化プログラムを作成しRPAの基本を学ぶ	3前	30	1		○		○								○
34	○		AIプログラミング言語	Python言語の基礎を理解する	3前	60	2		○		○								○
35	○		卒業研究（企画・設計）	これまで学んできたことを基に、今問題となっていることを解決できるシステム・アプリを企画する。また後期の実装工程をにらみ、実現方法を確定する。	3前	60	2		○		○			○		○	○	○	○
36	○		AWSクラウド演習	基本的なAWS (Amazon Web Service) のサービスを利用するうえで必要な基本的な知識を学ぶ	3前	60	2		○		○								○
37		○	専攻Ⅲ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	3前	30	2		○		○		○						
38	○		社会人基礎講座Ⅱ	一般常識・マナーについて学ぶとともに、自己分析を行い就職活動でアピールできる材料を準備する。	3前	30	2	○			○			○					○
39	○		ビジネス文書	社内や取引先との間で交わされる報告書、礼状などのビジネス文書作成時に必要な知識や技能を養う。	3前	60	4	○			○			○					○

40		○	インターンシップⅢ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	3前	96	2				○	○					
41	○		AIプログラミング演習	Python言語を使って機械学習プログラムを作成し、AIの基本を理解する	3後	60	2				○	○					○
42	○		卒業研究	前期に企画した内容を元に製品を完成する。プロジェクトチームの一員として、協調してより良いシステム開発を目指す。	3後	##	7				○	○			○	○	○
43	○		UIデザイン	ユーザビリティを意識したWebサイトやアプリケーションが構築する為に必要なUIデザインを学ぶ	3後	30	1				○	○			○		
44	○		AWSクラウド応用	クラウド上に基本的なWebアプリケーションを構築する為に必要なAWSサービスを理解する	3後	30	1				○	○			○		
45	○		専攻Ⅳ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-Sports専攻	3後	30	1				○	○			○		
合計						45 科目			2400 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する	1学年の学期区分	2期
履修方法：	所定の授業科目を受講し、その科目評価で合格した者には単位認定する	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地							
専門学校穴吹コンピュータカレッジ		昭和61年3月25日		佐戸 三千代		〒 760-0017 (住所) 香川県高松市番町2-4-14 (電話) 087-822-3001							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地							
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日		穴吹 忠嗣		〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度							
工業	工業専門課程	情報ビジネス学科		平成15(2003)年度	-	平成26(2014)年度							
学科の目的	ビジネスソフトやWeb・動画編集技術の修得、地域の商店街や学校と連携したイベント(パソコン教室・商店街のホームページ制作等)の企画・運営などを通して、IT活用技術とコミュニケーションスキルを兼ね備えた人材を養成する												
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	MOS Expert、Webクリエイター認定試験、ITパスポート、日商簿記3級												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技					
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 0 単位		210 単位時間 0 単位	1,490 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位					
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)									
30人	23人	0人		0%									
就職等の状況	■卒業者数(C)		10人										
	■就職希望者数(D)		9人										
	■就職者数(E)		9人										
	■地元就職者数(F)		7人										
	■就職率(E/D)		100%										
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		78%										
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		90%										
	■進学者数		0人										
	■その他												
	(令和5年度卒業者にに関する令和6年5月1日時点の情報)												
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 営業職、カスタマーエンジニア職、プログラマ職、総合職、事務職等													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無				評価結果を掲載したホームページURL						
当該学科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/computer/												
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)												
	総授業時数		1,700 単位時間		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間		うち企業等と連携した演習の授業時数		280 単位時間		
		うち必修授業時数		1,700 単位時間		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		280 単位時間	
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間									
		(B:単位数による算定)											
		総授業時数		0 単位		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位		うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位	
		うち必修授業時数		0 単位		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位	
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位									
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人								
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人								
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人								
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人								
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人								
	計				0人								
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				0人									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
企業や各種団体等との連携により、該当学科で必要とされる知識や技術について、カリキュラムの改善・構築等を目的とした教育課程の編成を行う。卒業後、即戦力となれる専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するため、カリキュラム内容については、連携企業や団体等と意見交換を行い、常に時代のニーズに即しているか定期的に点検を行い、改善を盛り込む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設立し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 功	香川県情報サービス産業協議会	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
北川 智之	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
亀田 健司	シフトシステム株式会社	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山崎 正宏	株式会社ヘルツ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
佐戸 三千代	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
壽福 英尚	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長・ 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
榎本 靖之	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(12月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年2月1日 15:30～17:30

第2回 令和6年3月5日 15:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

IT人材を育てたいという社会の流れに上手に協調できる為には何が重要かという問題意識が必要である。カリキュラム検討するにあたって、地元香川県、高松市が求めているIT人材とはどのような人材をいうのかを、各委員から意見をいただいた。特に、従来からあるITスキルだけでなくクラウド、AIを使いこなせる技術者のニーズも高まっており、その内容を盛り込んだ科目の導入について意見をいただいた。また広報キャリアセンターと連携し、卒業生の活躍状況等の情報を分析しカリキュラムの検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 業界で求められる必須の専門知識や実践的なシステム開発技術の修得はもとより、交渉力、プレゼン力などのコミュニケーションスキルなども身に付けることが出来るよう、それぞれの専門職に特化したカリキュラム・授業内容を連携企業や各種団体等と協力して構築・実施する。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前によく打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当の授業部分に関しては、期末に成績評価を企業担当者が行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
メディアデザイン実習	PhotoshopやIllustratorの実用的な使い方を習得し、より実践的なコンテンツを制作、グラフィックスの制作技術の基礎を、実習を通じて習得、コンテンツ制作の周辺知識についても理解を得る	高松丸亀町商店街振興組合
Webサイト実践演習	デザイン重視のWebページ制作を実践形式で学習・制作し、企画書にて実務レベルを知り、Web制作フローの理解、サイトデザイン・アーキテクトにそったWebデザインについて理解を得る	高松丸亀町商店街振興組合
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。 「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: ドローン操縦技能講習		連携企業等: RUSEA高松支部
期間: 令和5年4月4日(火)～4月5日(水)		対象: 専攻科目担当教員
内容: ドローンの基本的な操縦技能を学ぶ		
研修名: 情報セキュリティ対策研修		連携企業等: 穴吹学園デジタル推進室
期間: 令和6年1月12日(金)		対象: 全教員
内容: 機密情報保持や情報漏洩防止を目的としたセキュリティ対策について		
研修名: ICT活用研修		連携企業等: EDL(株)
期間: 令和5年8月30日(水)		対象: 情報ビジネス学科担当教員
内容: ICT教育を活性化するためGoogleワークスペースの使用法を段階的に学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	発達障害の基礎知識	連携企業等:	香川県発達障害支援センター「アルブスカがわ」
期間:	令和5年6月28日(水)	対象:	情報ビジネス学科担当教員
内容:	発達障害の基礎を学び、教員のこころの動揺を取り除き、学生対応で気を付けるべき点を学ぶ		

研修名:	コンプライアンス研修	連携企業等:	穴吹学園本部コンプライアンス室
期間:	令和5年8月22日(火)	対象:	全教員
内容:	職場におけるハラスメント理解と防止対策について		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ウェブ解析士 体験セミナー	連携企業等:	一般社団法人 ウェブ解析士協会
期間:	未定	対象:	情報ビジネス学科担当教員
内容:	ウェブ解析スキルを身につけ、データを読み取り、正しい判断ができるスキルを習得について学ぶ		

研修名:	データ分析のための統計学基礎	連携企業等:	(株)インソースデジタルアカデミー
期間:	未定	対象:	情報ビジネス学科担当教員
内容:	統計学、Microsoft Excelの研修を通じて、データの解析に必要な思考スキルを学ぶ		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	未定	対象:	中堅教員
内容:	学生が自分自身のキャリア(仕事人生)を主体的に設計・選択・決定できるように支援する」という理念を広く浸透させ、教職員として身に付けるべきマインド(態度や姿勢・考え方)を学ぶ		

研修名:	LGBTQの基礎知識	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	未定	対象:	情報ビジネス学科担当教員
内容:	多様性の理解		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

- ①関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける
- ②自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する
- ③結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像は、定められていますか
(2)学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3)教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか
(4)学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5)学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6)教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8)財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9)法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での意見を受け、平成27年度から学習支援が必要な学生のサポートとして「学びラボ」を設置し、放課後等に支援授業をしている。教員の教授力向上のために研修を実施しており、今後は研修以外にも教員のインターンシップを実施する予定。学生の就職のミスマッチを防ぐため、定期的なガイダンスで希望業種・職種や就職に対する不安などを把握する。また社会人基礎講座の授業でコミュニケーション力の向上に繋がる取り組み(卒業生座談会・グループディスカッション等)を増やしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 扶美子	香川県立高松東高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
田中 雅子	株式会社たかせんテレコム	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
島 薫	株式会社パオ・フィール	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
富田 武久	在校生保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/content/uploads/2f277f9df3ba49f8c7b83449f05faac1.pdf>

公表時期: 令和6年3月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

基本的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-college.net/disclosure/>

公表時期: 令和6年6月1日

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		#####		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			パソコン演習 (Word)	一般的に最も良く使われるOffice系ソフト(Word)の基礎から応用までの機能を学習し、MOS試験の試験対策をする。	1 前	60	2		○		○				○
2	○			パソコン演習 (Excel)	一般的に最も良く使われるOffice系ソフト(Excel)の基礎から応用までの機能を学習し、MOS試験の試験対策をする。	1 前	60	2		○		○				○
3	○			パソコン演習 (PowerPoint)	一般的に最も良く使われるOffice系ソフト(PowerPoint)の基礎から応用までの機能を学習し、MOS試験の試験対策をする。	1 前	30	1		○		○				○
4	○			Webサイト演 習 I	Webページを制作するための基礎知識(構成、HTML/CSSコーディング、画面デザイン)について学習し、Webクリエイター試験の合格を目指す。	1 前	##	4		○		○				○
5	○			PC演習	パソコンの構造やインターネットの仕組み、ソフトウェアのインストールなどを学び、日常生活の中でパソコンを活用するために必要な基礎知識や技術を身に付ける。	1 前	30	1		○		○			○	
6	○			メディアデザ イン演習 I	PhotoshopとIllustratorの基本操作を習得し、実務に則した技能を養い検定取得を目指す。	1 前	30	1		○		○				○
7	○			ビジネス文書	社内や取引先との間で交わされる報告書、礼状など、様々なビジネスシーンで使われるビジネス文書作成時に必要な知識を養う。	1 前	60	4	○			○			○	
8	○			メディアデザ イン演習 II	PhotoshopとIllustratorの基本操作を習得し、実務に則した技能を養い検定取得を目指す。	1 後	60	2		○		○				○
9	○			メディアデザ イン実習	丸亀町商店街とのコラボイベントの準備、運営を行い実務技能を養う。お客様に対する接客マナーを学ぶ。	1 後	60	2		○		○	○	○		○
10	○			パソコン演習 (Expert)	前期で学んだ、Word・Excel基礎を基に応用となるExpert試験合格を目指す。	1 後	30	1		○		○				○
11	○			コンピューター リテラシ	職業人となり機器およびシステムの把握や、担当業務の遂行およびシステム化を推進するために必要な基礎知識を学習し、国家試験のITパスポート試験合格を目指す。	1 後	90	6	○			○			○	

26	○		社会人基礎講座Ⅱ	基本となる「就業意識」を醸成し、実際の就職活動に即した必要な知識・技術を学習、単に内定を獲得するだけでなく、就職後も「より良き社会人・企業人」への理解を得る	2前	30	2	○			○		○		
27	○		Webサイト実践演習	Webページ制作の実現力やコミュニケーション力の向上のため、丸亀町商店街と連携し協力店舗への訪問、要望の聞き取りを行い、店舗の応援Webサイトを制作することで実践力を身に付ける	2後	##	7		○		○	○	○	○	○
28	○		パソコン教育演習	今まで培ってきたパソコン操作の知識、技術やコミュニケーション力を活かし、地域教育現場(高校)の生徒達や後輩たちにパソコン操作の正しい理解を得られるよう指導する。	2後	90	3		○		○	○	○		
29	○		ビッグデータ	マーケティングの基本、データ分析・整理手法の基礎を学習しグループごとにオープンデータを収集、分析する。分析後に得た、問題点や改善点を発表する。	2後	60	2		○		○		○		
30	○		コミュニケーション体育Ⅱ	コミュニケーション力を高めることに重点を置き、学生間で役割を分担、企画・運営し、実践的によりコミュニケーション力、行動力を高め総合的な人間力の重要性について理解を得る	2後	30	1		○			○	○		
31		○	専攻Ⅱ	データサイエンス専攻、ドローン・ロボット専攻、e-sports専攻の3専攻の中から1つを選択しそれぞれの分野にて学ぶ。	2後	30	1		○		○		○		
32		○	インターンシップⅡ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	2後	96	2			○		○			
合計						32	科目	1700 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する		1学年の学期区分	2期
履修方法： 所定の授業科目を受講し、その科目評価で合格した者には単位認定する		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																							
専門学校穴吹コンピュータカレッジ		昭和61年3月25日		佐戸 三千代		〒 760-0017 (住所) 香川県高松市番町2-4-14 (電話) 087-822-3001																																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																							
学校法人穴吹学園		平成3年4月1日		穴吹 忠嗣		〒 760-0020 (住所) 香川県高松市錦町1-22-23 (電話) 087-823-5700																																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																																							
工業	工業専門課程	ネットワークセキュリティ学科		令和 1(2019)年度	-	令和 2(2020)年度																																							
学科の目的	コンピュータ全般の知識、情報セキュリティ、ネットワーク設計、サーバ構築技術を修得させ、サイバー攻撃から情報資産を守るため情報セキュリティ技術と企画提案力を兼ね備えた人材を養成する																																												
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	基本情報技術者試験、情報マネジメント試験、情報処理安全確保支援士試験、CCNA取得相当のカリキュラム																																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																																					
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 0 単位		210 単位時間 0 単位	1,490 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位	0 単位時間 0 単位																																					
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																									
30人	25人	0人		0%																																									
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>:</td><td>12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>4</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>36</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>92</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) セキュリティエンジニア職、インフラエンジニア職、ネットワークエンジニア職、ネットワーク運用管理職、システムエンジニア職、プログラマー職 等</p>									■卒業者数(C)	:	12	人	■就職希望者数(D)	:	11	人	■就職者数(E)	:	11	人	■地元就職者数(F)	:	4	人	■就職率(E/D)	:	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	36	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	92	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業者数(C)	:	12	人																																										
■就職希望者数(D)	:	11	人																																										
■就職者数(E)	:	11	人																																										
■地元就職者数(F)	:	4	人																																										
■就職率(E/D)	:	100	%																																										
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	36	%																																										
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	92	%																																										
■進学者数	:	0	人																																										
■その他	:																																												
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																												
当該学科のホームページURL	https://web.anabuki-college.net/department/computer/network-security/																																												
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>150 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>150 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>									総授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	150 単位時間	うち必修授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	150 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位	うち必修授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位								
総授業時数	1,700 単位時間																																												
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																												
うち企業等と連携した演習の授業時数	150 単位時間																																												
うち必修授業時数	1,700 単位時間																																												
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																												
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	150 単位時間																																												
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																												
総授業時数	0 単位																																												
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																												
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位																																												
うち必修授業時数	0 単位																																												
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																												
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位																																												
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位																																												
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td>2人</td> </tr> </table>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	3人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	2人																						
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																												
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																												
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																												
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																												
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																												
計	3人																																												
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	2人																																												

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業や各種団体等との連携により、該当学科で必要とされる知識や技術について、カリキュラムの改善・構築等を目的とした教育課程の編成を行う。卒業後、即戦力となれる専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成するため、カリキュラム内容については、連携企業や団体等と意見交換を行い、常に時代のニーズに即しているか定期的に点検を行い、改善を盛り込む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 カリキュラム編成・授業科目の内容・方法の充実改善を目的とした「教育課程編成委員会」を設立し、業界団体や企業等から意見・要望を伺う。そして、学校は「教育課程編成委員会」の意見・要望を十分に活かし、かつ教育理念及び学科目標に沿ったカリキュラムの改善を検討し、教務部が主体となり新たなカリキュラム案を編成して、それを校長が決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
小林 功	香川県情報サービス産業協議会	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
北川 智之	西日本電信電話株式会社 香川支店	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
亀田 健司	シフトシステム株式会社	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山崎 正宏	株式会社ヘルツ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
佐戸 三千代	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
壽福 英尚	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 副校長・ 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
榎本 靖之	専門学校穴吹コンピュータカレッジ 課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (12月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年2月1日 15:30～17:30

第2回 令和6年3月5日 15:30～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

IT人材を育てたいという社会の流れに上手に協調できる為には何が重要かという問題意識が必要である。カリキュラム検討するにあたって、地元香川県、高松市が求めているIT人材とはどのような人材をいうのかを、各委員から意見をいただいた。特に、従来からあるITスキルだけでなくクラウド、AIを使いこなせる技術者のニーズも高まっており、その内容を盛り込んだ科目の導入について意見をいただいた。また広報キャリアセンターと連携し、卒業生の活躍状況等の情報を分析しカリキュラムの検討を行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界で求められる必須の専門知識や実践的なシステム開発技術の修得はもとより、交渉力、プレゼン力などのコミュニケーションスキルなども身に付けることが出来るよう、それぞれの専門職に特化したカリキュラム・授業内容を連携企業や各種団体等と協力して構築・実施する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学生にとって効果的な授業となるよう、当校における授業科目の目的や内容を事前にしっかりと打ち合わせを行い、企業と学校が共通理解・共通努力をする。科目の全時間を企業が担当する場合は、シラバスを授業担当者がその期が始まる前に作成し、年度末に行われる各学科の担当者会議に持ち寄り意見交換し授業内容を決定する。また、担当の授業部分に関しては、期末に成績評価を企業担当者が行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
情報セキュリティ	ITインフラストラクチャのエンジニアとして必須のセキュリティ技術と知識を、CompTIA Security+のテキストや、連携企業のセキュリティ専門家の特別講義などで身につける。	株式会社ラック
インシデント演習	システム運用時に起こる様々なインシデントを発見し、現象を把握して報告する流れを習得するために、連携企業のsecurity専門家の特別講義などで身につける。	株式会社ラック

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員研修規程に従い、新たに採用した教職員に対して「新任者研修」、管理職教職員に対して「管理職研修」、専門分野における実務に関する「養成研修」を教職員の業務経験や能力に応じて実施する。

「養成研修」は、該当学科の教育に必要な専門知識や技術、技能の修得と、企業人として不可欠であるキャリアプランニングやマネジメント能力、コミュニケーションスキルなどの指導力向上を目的とし、企業や各種団体等との連携のもと、実践的な研修を計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	AWS Academy Cloud Foundations	連携企業等:	AWS academy
期間:	令和5年4月3日(月)	対象:	ネットワークセキュリティ学科担当教員
内容	AWSの基礎技術や導入メリットについて知識と合わせて学生に重点的に教えるべきポイントを学ぶ		
研修名:	ドローン操縦技能講習	連携企業等:	RUSEA高松支部
期間:	令和5年4月4日(火)～4月5日(水)	対象:	専攻科目担当教員
内容	ドローンの基本的な操縦技能を学ぶ		
研修名:	指導者向けWebセミナー ～情報処理・プログラミング分野の新しい学びの形について	連携企業等:	サーティファイ認定試験事務局
期間:	令和5年8月22日(火)	対象:	ネットワークセキュリティ学科担当教員
内容	上位教育機関におけるプログラミング実装力養成と実践プログラミング技術試験の活用について		

研修名:	情報系教員のためのGPTを搭載したアプリ開発演習	連携企業等:	WillBooster株式会社
期間:	令和5年12月19日(火)～20日(水)	対象:	ネットワークセキュリティ学科担当教員
内容:	PythonのGPTライブラリであるLangChainを使用したアプリ開発		

研修名:	情報セキュリティ対策研修	連携企業等:	穴吹学園デジタル推進室
期間:	令和6年1月12日(金)	対象:	全教員
内容:	機密情報保持や情報漏洩防止を目的としたセキュリティ対策について		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	発達障害の基礎知識	連携企業等:	香川県発達障害支援センター「アルプスカガワ」
期間:	令和5年6月28日(水)	対象:	ネットワークセキュリティ学科担当教員
内容:	発達障害の基礎を学び、教員のこころの動揺を取り除き、学生対応で気を付けるべき点を学ぶ		

研修名:	コンプライアンス研修	連携企業等:	穴吹学園本部コンプライアンス室
期間:	令和5年8月22日(火)	対象:	全教員
内容:	職場におけるハラスメント理解と防止対策について		

研修名:	ICT活用研修	連携企業等:	EDL(株)
期間:	令和5年8月30日(水)	対象:	ネットワークセキュリティ学科担当教員
内容:	ICT教育を活性化するためGoogleワークスペースの使用法を段階的に学ぶ		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	AWS Academy × Cisco Networking Academy 合同プログラム交流会	連携企業等:	AWS academy
期間:	未定	対象:	ネットワークセキュリティ学科担当教員
内容:	AWS Academy プログラムの最新情報の共有と教育関連の動向の共有		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリアサポーター養成講座	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	未定	対象:	中堅教員
内容:	学生が自分自身のキャリア(仕事人生)を主体的に設計・選択・決定できるように支援する」という理念を広く浸透させ、教職員として身に付けるべきマインド(態度や姿勢・考え方)を学ぶ		

研修名:	LGBTQの基礎知識	連携企業等:	未定
期間:	未定	対象:	ネットワークセキュリティ学科担当教員
内容:	多様性の理解		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ①関係者ならではの視点で具体的かつ実践的な評価を受ける
- ②自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する
- ③結果として職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画をし、PDCAサイクルを繰り返し続ける

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像は、定められていますか
(2) 学校運営	運営方針は教育理念等に沿ったものになっていますか
(3) 教育活動	教育理念、育成人材像に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されていますか
(4) 学修成果	資格・免許取得率の向上が図られていますか
(5) 学生支援	退学率の低減が図られていますか
(6) 教育環境	教育上、必要、かつ、十分な種類・数の施設・設備が整備されていますか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動を積極的、かつ、効果的に行っていますか
(8) 財務	学校及び設置者(法人)の収支、財政基盤は安定していますか
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準・各種学校規程及び関係法令の遵守と、適正な運営がなされていますか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っていますか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での意見を受け、平成27年度から学習支援が必要な学生のサポートとして「学びラボ」を設置し、放課後等に支援授業をしている。教員の教授力向上のために研修を実施しており、今後は研修以外にも教員のインターンシップを実施する予定。学生の就職のミスマッチを防ぐため、定期的なガイダンスで希望業種・職種や就職に対する不安などを把握する。また社会人基礎講座の授業でコミュニケーション力の向上に繋がる取り組み(卒業生座談会・グループディスカッション等)を増やしている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 扶美子	香川県立高松東高等学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	高等学校関係者
尾本 昭宣	株式会社穴吹カレッジサービス ソフト開発事業部	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
田中 雅子	株式会社たかせんテレコム	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
島 薫	株式会社パオ・フィール	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員
富田 武久	在校生保護者	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://web.anabuki-college.net/content/uploads/2f277f9df3ba49f8c7b83449f05faac1.pdf>

公表時期: 令和6年3月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

基本的な教育の質向上を図ることを目的とし、情報提供の基本方針を以下のように定める。

- ・教育に関わる情報について、原則、公開する
- ・定期的に更新し、最新の情報を提供するように努める
- ・情報の提供に関してはインターネットでの提供を基本とする
- ・統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する
- ・個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、時間割、年間の授業計画
(3) 教職員	教職員数(職名別)、教職員の組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援の取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支報告書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://web.anabuki-college.net/disclosure/#computer>

公表時期: 令和6年6月1日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			コンピュータ概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術の基本的な知識を習得する。	1前	90	6	○			○	○			
2	○			システム開発概論	国家資格(基本情報技術者)取得に必要な、コンピュータシステムの開発技術やマネジメント知識を習得する。	1前	60	2		○		○		○		
3	○			ネットワーク・セキュリティ概論	国家資格(基本情報技術者・応用情報技術者)取得に必要な、情報技術特にネットワーク分野の基本的な知識を習得する。	1前	60	4	○			○		○		
4	○			アルゴリズムI	プログラミングに必要な手順や計算法であるアルゴリズムについて学習し、国家資格(基本情報技術者)の科目(フローチャート・擬似言語)の理解度を高める。	1前	90	3		○		○		○		
5	○			データベース基礎	SQLの基礎を理解する	1前	30	1		○		○				○
6	○			J a v a I	java言語の基本制御文からオブジェクト指向を意識したプログラミングを理解する力を身につける。また基本情報技術者試験の科目Bの理解支援と位置づける。	1前	90	3		○		○		○		
7	○			アルゴリズムII	国家資格(基本情報技術者)の科目B対策を中心に行う	1後	60	2		○		○		○		
8	○			ネットワーク演習基礎	TCP/IPの基本的な知識を習得し、ルータ・スイッチの基本的な設定を習得する	1後	##	3		○		○		○		
9	○			情報処理講座I	国家資格(基本情報技術者、情報セキュリティマネジメント)の分野別対策を行い、問題解答を通じて、応用力を習得する	1後	60	2		○		○		○		
10	○			サーバー構築演習	内部サーバ・外部サーバそれぞれに適した構築と設定を習得し、稼働しているサーバの運用管理の手法とセキュリティ対策の方法を習得する	1後	90	3		○		○				○
11	○			ログ解析演習	LinuxOS上に構築した各種サービスのログの見方を学ぶ、またログ解析ツールを使った演習を行う。	1後	30	1		○		○				○

28		○	インターンシップⅡ	将来のキャリアに関連した就業体験にて、実際の仕事や職場の状況を知り、自己の職業適性や職業選択について深く考え、就職活動の方向性についての基礎的な理解を得る	2 後	96	2			○	○		
合計					26	科目	1700 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ①必修及び選択必修全科目の成績がC評価以上 ②必修及び選択必修全科目の出席が90%以上 上記条件を両方満たした学生に対して卒業を認定する		1学年の学期区分	2期
履修方法： 所定の授業科目を受講し、その科目評価で合格した者には単位認定する		1学期の授業期間	15週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。